# 秋田焼山の火山活動解説資料（平成 26 年８月）

仙 台 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成 25 年７月 25 日に噴火予報（噴火警戒レベル１、平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

## ○ 活動概況

**・噴気など表面現象の状況（図１、図２-①）**

東北地方整備局が山頂の西約２km に設置している焼山監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

**・地震や微動の発生状況（図２-②、図３）**

火山性地震は少ない状態で経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。
なお、７日 05 時 05 分に山頂の北側約３km、深さ約４kmを震源とするマグニチュード 4.4[1)] の地震が発生し、秋田県の大館市と北秋田市で最大震度２を観測しました。この地震の後、05 時台前半を中心に一時的に地震が増加し、７日の日回数は 19 回となりましたが、震度１以上を観測する地震は発生しませんでした。

1）マグニチュードは地震の規模を示します。資料中の値は暫定値及び速報値が含まれますので、後日変更することがあります。

**・地殻変動の状況（図４、図５）**

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

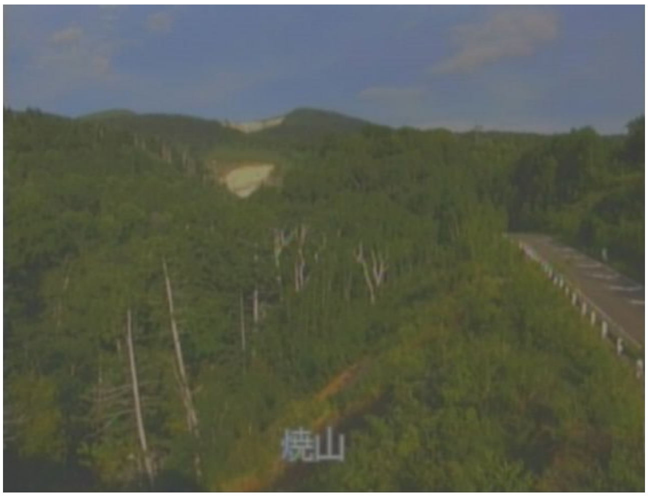


**図１　秋田焼山　山頂付近の状況（８月 14 日 16 時 50 分頃）**
**・山頂の西約２kmに設置されている焼山監視カメラ（東北地方整備局）の映像です。**

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（http://www.jma-net.go.jp/sendai/）や、気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年９月分）は平成 26 年 10 月８日に発表する予定です。
この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。
本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50ｍメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号　平 23 情使、第 467 号）。

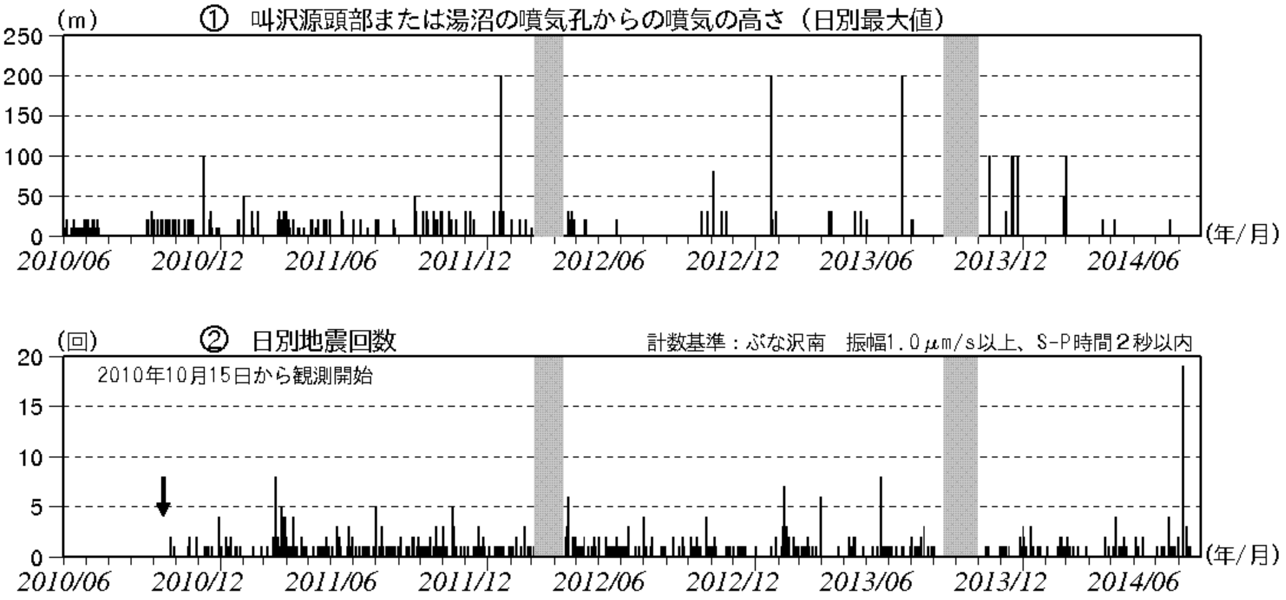


**図２　秋田焼山　火山活動経過図（2010 年６月～2014 年８月）**

・①2010 年６月１日から焼山監視カメラ（東北地方整備局）により観測を開始しました。

・②2010 年 10 月 15 日から観測を開始しました。

・図の灰色部分は欠測を示します。

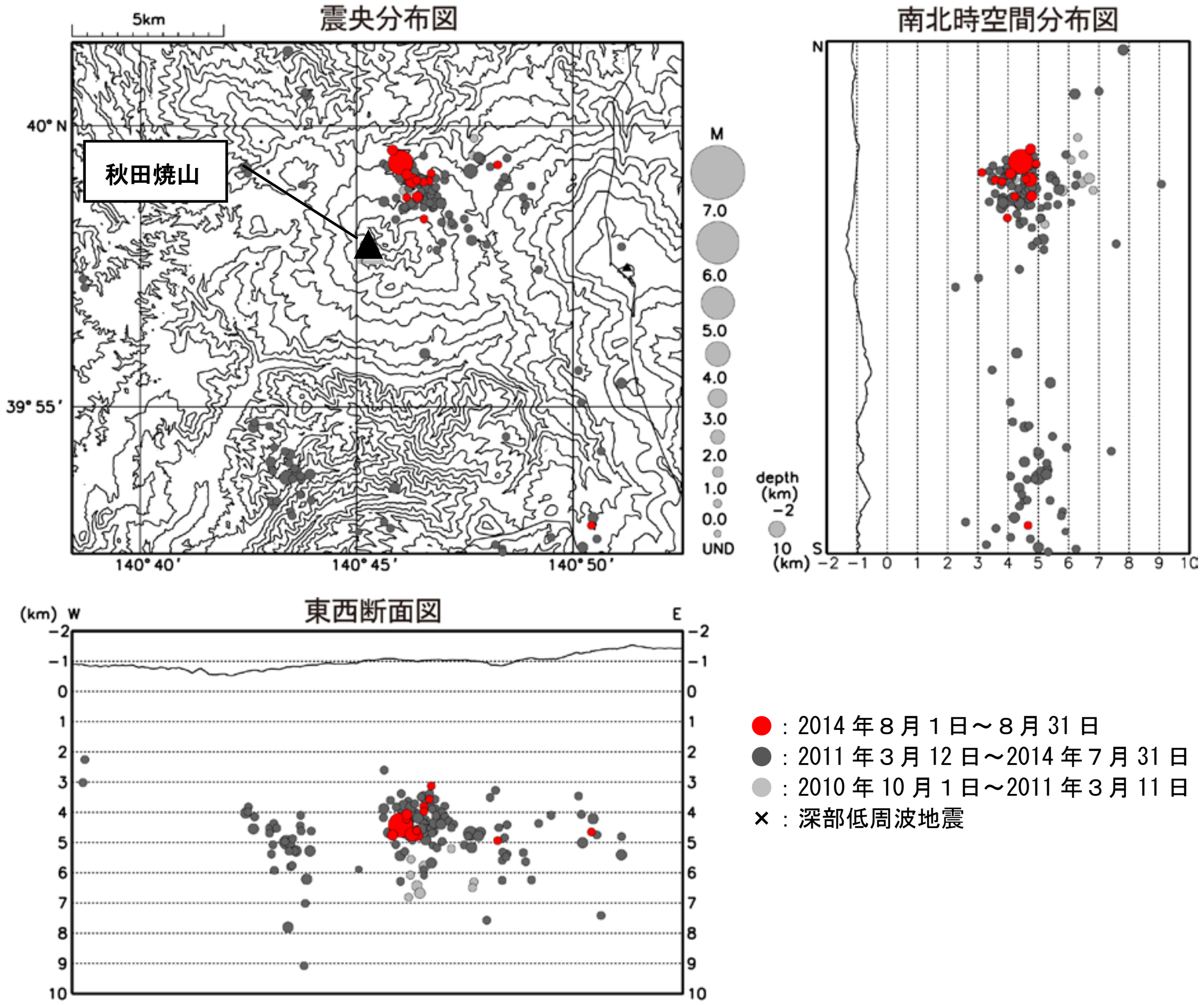


**図３　秋田焼山　広域地震観測網による秋田焼山山周辺の地震活動図（2010 年 10 月～2014 年８月）**

・2010 年 10 月 15 日から観測を開始しました。

・Ｍ（マグニチュード）は地震の規模を示します。

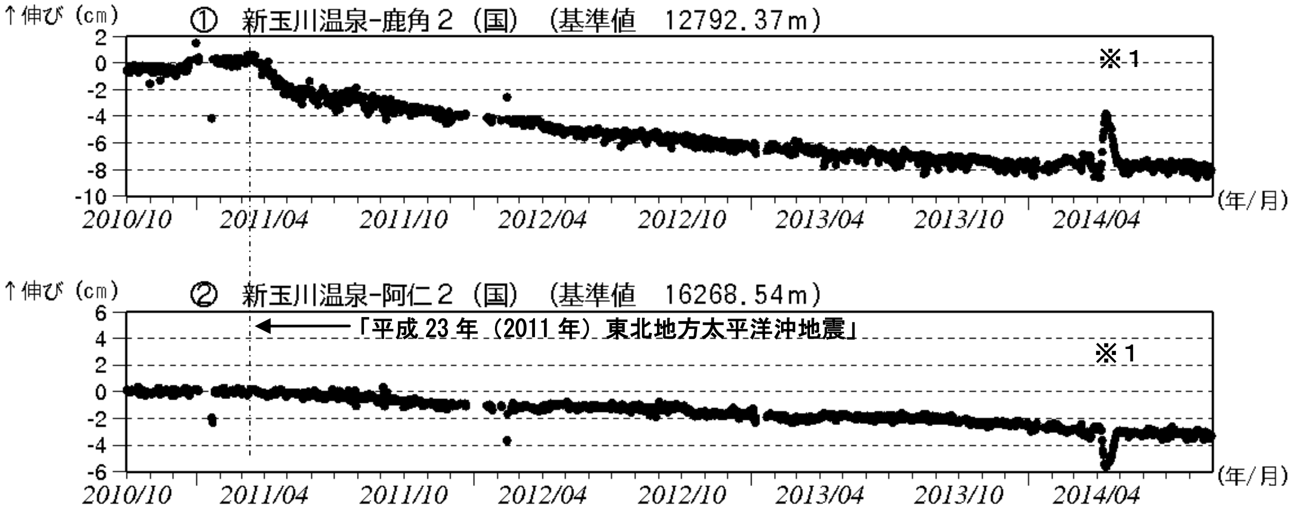


**図４　秋田焼山　GNSS[2] 基線長変化図（2010 年 10 月～2014 年８月）**

２）GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

・2011 年３月 11 日以降の縮みの傾向は、「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」による影響であり、火山活動によるものではないと考えられます。

・「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。

・①～②は図５の GNSS 基線①～②に対応しています。

・グラフの空白部分は欠測を表しています。

・各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。

（国）：国土地理院

※１　2014 年３月から４月にかけて、新玉川温泉観測点では原因不明の変動が観測されていますが、火山活動に起因するものではありません。

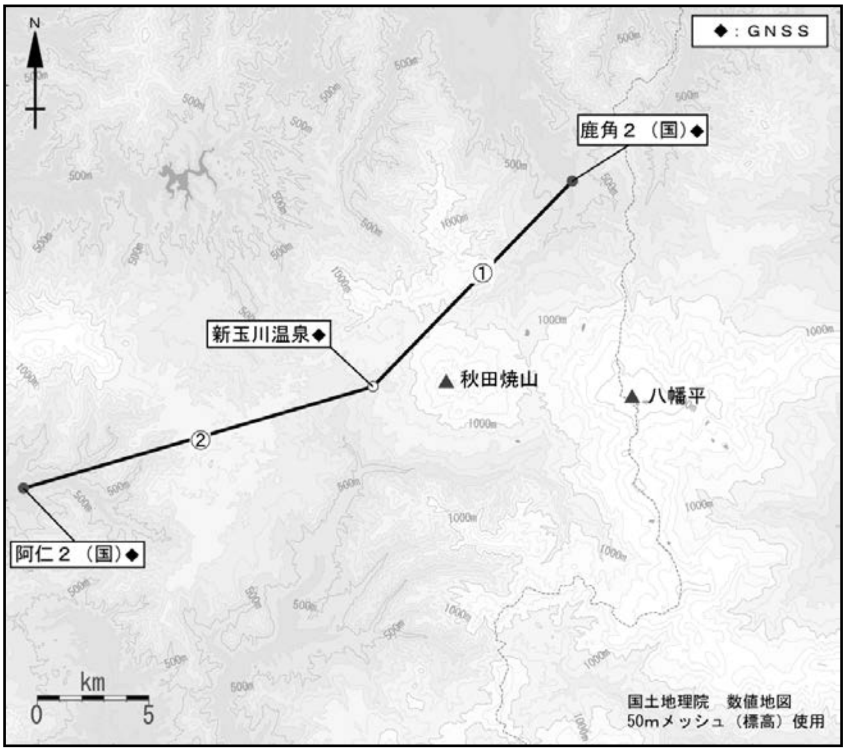


**図５　秋田焼山　GNSS 観測点配置図**

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院

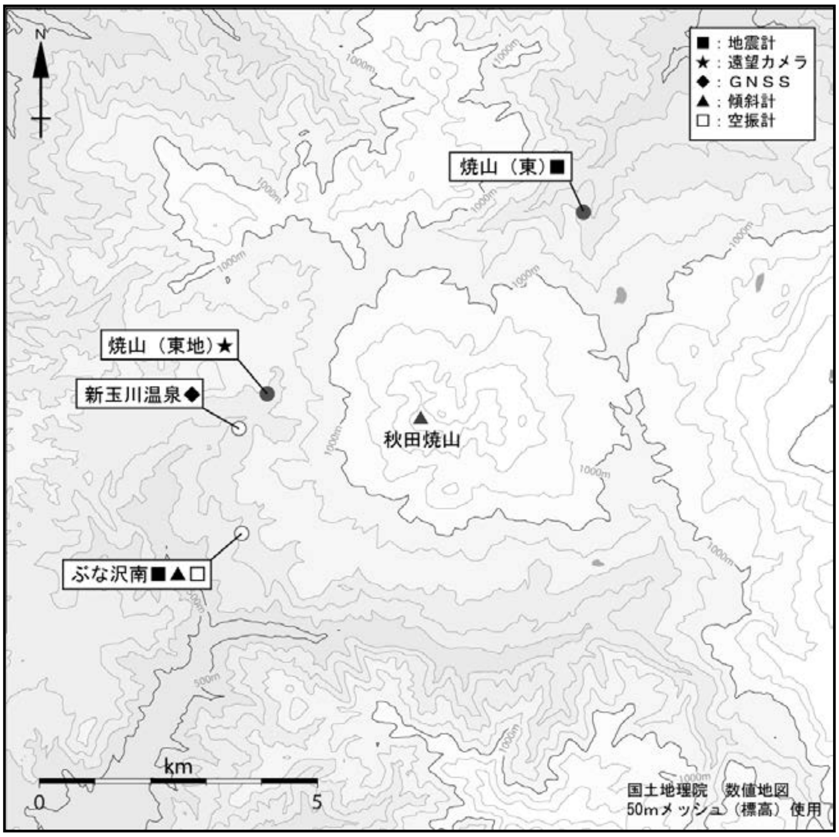


**図６　秋田焼山　観測点配置図**

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東地）：東北地方整備局　（東）：東北大学